



はまなすの丘公園（石狩市）

道経連会報 No.287

CONTENTS

巻頭言	1
2024年度 国の施策及び 予算に関する要望活動について	2
新法人「北海道新産業創造機構」と 「次世代半導体推進プラットフォーム」の設立について	9
第4期「次世代経営人財ゼミ」開講	12
【連載】ゼロカーボン北海道の 実現に向けて	26
台湾三三企業交流会との 意見交換	30
常任理事会レポート	31
会員企業紹介	38
会員の異動	42
新会員企業紹介	45
グループ活動報告	48
人事・労務相談日	63
北海道の経済動向	64
道経連カレンダー	66
事務局人事	67
わがまち紹介（シリーズ57）	68



北海道経済連合会 常任理事

今給黎康一

株式会社日立製作所
北海道支社長

北海道との縁、 継承される開拓スピリッツ

円山公園側から北海道神宮の境内に入り、本殿のある参道へと続く道の途中に小ぶりの社殿、開拓神社があります。ここは、北海道開拓に偉大な功績を遺した功労者37柱が祀られた神社で、伊能忠敬、高田屋嘉兵衛、松浦武四郎、黒田清隆、永山武四郎といった誰もが知る方々が名前を連ねており、その中に續豊治という方のお名前があります。

續豊治さんは函館の船工で、江戸末期に西洋人の指導を受けることなく日本人の独創で西洋型の帆船を日本で初めて作った方です。續豊治さんのご子息成豊さんは、福士家の養子となり、後に新島襄の密航を手伝い、また、日本で初の気象観測を函館で行いました。福士成豊さんの当時のお住まいは西洋風の建築として北海道開拓の村に移築され、瀟洒な佇まいを今も見ることができます。



箱館丸



福士家住宅

私が、全くの無縁であった北海道に赴任したのは2018年のことで、それまでは安全保障関連省庁の営業として東京で勤務しておりましたので、北海道には知り合いもおらず、幾許かの不安を抱えての赴任であったことはご想像の範囲です。

北海道赴任の直前まで資源エネルギー庁の海底資源探査プロジェクトで、ノルウェー資源探査会社日本法人PGSジャパン社の續誠社長と一緒に仕事をする機会に恵まれ、ご先祖が函館の船大工だったというお話を伺って

おりましたので、着任早々の函館どつくの関川社長（現在は特別顧問）との面会の際に、ふと、思い出して續さんのお名前を出したところ、「その方は函館どつくに所縁が深い續造船の縁者の方ではないか。」とのことで大いに会話が盛り上がりました。後日、續豊治さんについて記述がある「函館ドック史話 道南の歴史研究協議会刊」抜粋を頂戴いたしました。不思議なもので、こうしたご縁のおかげで、私の目の前が拓けた感覚がしたことを覚えております。その後は、續社長に來道いただいて函館どつくさん、ご親戚である五島軒の若山様、前述した北海道開拓の村などにご一緒し、併せて、私自身が北海道の歴史に興味を持った次第です。考えてみれば、開拓神社に祀られている方々の大半は僅か150年程度の昔に活躍された方々で、その後の短期間にこれほど急激に発展した北海道は、奇跡の土地だと感じます。同時に産業の盛衰が凝縮された地域でもあるとも思います。

續社長の話に戻しますと、繋がりには現在も続いております。北海道は再エネのポテンシャルが高い地域ということで、画期的な発想の洋上風力システム事業化の相談を受けて、道内で一緒に動き廻り、つい先日は海外最先端の重力探査の事業化のお話も伺いました。私より一回りほど上の先輩の方でありながら、次々と新しい分野にチャレンジされる姿勢に敬服しております。当のご本人は「また、一つ背負い込んでしまいましたが、これも血筋のなせるところなのではないでしょうか!」と仰り、開拓スピリッツは引き継がれています。私も開拓スピリッツを真似て、北海道の発展に少しでもお役に立ちたいと願っております。